

令和8年度 学校経営計画

四條畷市立岡部小学校
校長 杉本 政信

Ⅰ 学校経営方針

Ⅰ 四條畷市教育振興基本計画を参酌して

予測不可能な時代を豊かに生き抜き、未来を拓く人材の育成をするには、全ての児童が個性や創造性を発揮し、夢や可能性に挑戦しながら、協働し、学び続けることができる環境づくりが必要である。

学校はその環境の一部であることから、四條畷市教育振興基本計画の基本理念『みんなの学びが叶うまち～生涯学び 夢 挑戦～』の実現に向け、四條畷市教育振興基本計画を参酌し、学校の基本方針を以下、設定していく。

2 学校教育目標

『健康で よく考え 仲良く がんばりぬく子ども』の育成
～思いやり 感謝 ベストな自分～

3 学校教育目標を実現するための施策について

基本方針Ⅰ 『主体的に考え行動する「生きる力」を育む教育の推進』を受けて

① 確かな学力の育成

- 令和7年度校内研修の教科を、『探求を主とした総合的な学習・生活科』とし、研究テーマを『学んだことをいかして子どもたちが課題解決を楽しめる授業づくり』と設定し、昨年度の取組みを踏まえた探究的な学びの場の充実を図る。
- 学習への ICT 機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
- 『学びのプラン』に基づく組織的な学校の取組みを推進していく。
 - ・四條畷市「確かな学びを育む学校づくり」スタンダードに基づく学力向上の取組み推進
 - ・四條畷市授業スタンダードに基づく授業改善

② 豊かな心の醸成

- 自分や仲間を大切にすると人権教育、教育活動全体を通じた道徳教育、地域を愛する郷土教育の充実
- 児童一人ひとりが安心できる居場所のある学校、学級・学年集団づくり

③ 健やかな体の育成

- スポーツテスト結果からの体力づくりアクションプランに基づく体力向上の取組みの実施
- 食育の推進

基本方針Ⅱ 『個を認め合い、寄り添い、活かす教育の推進』を受けて

① ライフステージに応じた継続的な支援の充実

- 個に応じた支援の充実、UDの視点を取り入れたすべての児童にわかりやすい授業デザイン
- 関係諸機関、専門家と連携し、不登校を生みださない発達支持的生徒指導体制の確立

② 多様なニーズに即した教育の提供

基本方針Ⅲ 『地域コミュニティづくりへの支援』を受けて

①家庭・地域・学校の連携、協働の推進

- 学校運営協議会による学校サポート体制の発足
- 地域、家庭、学校をつなぐイベントの実施

基本方針4 『豊かな生涯学習活動と地域を創造する学びの支援』を受けて

①生涯を通じた学習活動の推進

- 学び続ける力の育成の為、家庭学習習慣の定着に向けた取り組み
- 読書習慣定着に向けた取組みの強化

基本方針5 『学びを支える教育環境の整備』

①安心・安全な施設等の段階的整備

- PTAと通学路における危険個所の点検を行い、必要な対策について関係課と連携していく

基本方針6 『学びを支える教育体制の整備』を受けて

①教員の資質能力の向上

- 全校で授業研究と実践を行い、教員の資質向上を図っていく。
- キャリアステージに応じた指導力向上のための質の高い研修を実施する。

②持続可能な指導体制の整備

- FOT (For Okabe Time) の継続実施。教職員一人ひとりが学校運営に参画
- 授業準備や子どもと向き合う時間の更なる確保を趣旨に、教員の業務を整理し負担軽減を図る

③ICT 利活用のための基盤整備

- 校務のICT化を図り、業務の負担軽減とともに、教育の質の向上を図る。

4 具体的な重点取組み

- ①総合的な学習の時間や生活科に係る探究的な学びでの授業研究、授業改善の推進
- ②児童の自己有用感を高める発達支持的生徒指導の観点をもとにした生活指導の推進
- ③支援教育の視点を含め、個を認め合い、対等な人間関係がある学級、学年集団づくりの実践
- ④学校、地域、保護者それぞれが主体となり、連携し、児童を中心においた行事の創造

2 めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標）

★めざす学校像	○学校教育目標「健康で よく考え 仲良く がんばりぬく子ども」の育成 ・子どもがチャレンジできる安心・安全な環境のある学校 ・保護者や地域とともに子どもを育む学校 ・教職員が互いのもちあじを發揮し高めあう学校
★めざす子ども像	○何事にも自分の考えを持ち、主体的・意欲的に取り組み、思いを表現できる子 ○「お・か・べ」・・・「お」もいやり 「か」んしゃ 「べ」ストな自分 ・自分の思いや考えを仲間にはわかりやすく伝えることができる子ども ・自分や仲間のもちあじを知り、協働的な活動ができる子ども

★めざす教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの状態を的確に把握し、適切な指導ができる教師 ○主体的に問題を捉え、広い視野で解決できるよう努力する教師 ○他者理解を積極的におこない、同僚と協働的な教育活動ができる教師
----------------	---

3 学校の現状(よさと課題)

(1) 子どもたちの実態

本校の子ども達の強みは、元気で優しく素直で、任せられたことは責任を持ってやり切る力があることである。高学年になるとリーダーシップを発揮し、自主活動を積極的に展開していく。そんな強みを持つ児童に対し、さらに求めたいのは、他者の思いを慮ったり、自分の思いを様々な方法で表現したりすることである。

※教育振興基本計画の測定指標に係る本校の児童のようす

項 目	肯定的回答(%)		
	令和5年度	令和6年度	令和7年度3学期
自分には良いところがあると思う児童の割合	82.7%	81.0%	91%(↑)
人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合	93.3%	96.3%	99%(↑)
将来の夢や目標を持っている児童の割合	74.7%	81.4%	78.1(↓)

(2) 子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

広い運動場、自然に囲まれた好環境に加え、中規模改修以降、明るくきれいな校舎内や教室、開放的な廊下、各教室には空調設備や大型テレビが配置され、個人用タブレットPCが市より貸与されている。ソフト面においても、教職員の指導のもと、学習規律を大切に、落ち着いた雰囲気での学習活動に取り組むことができている。

②地域

地域は学校に対して協力を惜しまない恵まれた環境である。関係自治会の方々とは、学校だよりを持参し、時々において情報交換を行うなか、連携を図らせてもらっている。

③組織(教職員、PTA、保護者)

- 教職員 学校教育目標の実現のため、ベクトルを揃え日々教育活動に熱意をもって取り組んでいる。
- 任意団体としてのPTAや自治会と連携し、地域ぐるみで子どもを育てる仕組みを深化させる。

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分Ⅰ 『学校経営』	
A 今年度の成果目標	達成基準(各種調査、アンケート等)
学校の教育力の充実	市授業改善に関するアンケート 学校教育自己診断アンケート
B 目標実現に向けた取組み	

項目	達成基準	具体的な方策
低中高学年での研究授業の実施	100%	学力向上担当教員(授業改善加配教員)を中心に、「四條畷市授業スタンダード」を踏まえた授業改善に努め、校内研修のテーマである『学んだことをいかして子どもたちが課題解決を楽しむ授業づくり』をめざす。
授業はわかりやすく楽しい(児)	(児)90% ※R7 84%	
学校に行くのが楽しい(保)(児)	(児)90% ※R7 86% (保)90% ※R7 87%	<ul style="list-style-type: none"> 自己有用感を高める発達支持的生徒指導の観点をもった取組みを、全ての教育活動でおこなう。 困り感を表している児童の理解と、組織的な支援方針をもとに児童の自尊感情を高める取組みをおこなう。 保護者と児童の様子についての共通理解を丁寧におこない、同じ方向性をもって児童の自立活動を行っていく。
担任等はお子さんの気持ちを理解し、家庭と適切に連携を図っている(保)	(保)最肯定65% ※R7 61%	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の児童理解の力を高めると共に発達支持的生徒指導の実践をおこなう。保護者に対して様々な機会を通して児童の頑張りを伝え保護者との連携をはかっていく。

目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
学校組織力の向上と運営体制の見直し		学校教育自己診断アンケート
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
各分掌や学年間の連携は円滑かつ有機的に機能している	(教)100% ※R7 97%	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営方針や教育目標などの周知を行い、学校運営の方向性の共有化を図る。 FOTを有機的、効率的に機能させ、組織体制の充実を図る。
様々な問題事案を未然に防止するため、生活指導部が中心となって取り組んでいる	(教)最肯定40% ※R7 36%	<ul style="list-style-type: none"> 発達支持的生徒指導の視点をもった、自尊感情を育てる教育活動の充実を図る。 いじめ、虐待、不登校などの生活指導関係および感染症やアレルギー対応、自然災害、交通安全などの保健安全指導関係の対応体制・方法の共有と見直しを行う。 外部機関と連携しながら支援が必要な児童に対してケース会議を開催し、組織的対応をおこなっていく

目標設定区分3 『人の管理・育成』(※業務量管理・健康確保措置実施計画の内容についても)

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
教職員の資質の向上		学校教育自己診断アンケート
B 目標実現に向けた取組み		

項目	達成基準	具体的な方策
初任者など経験の浅い教職員を学校全体で育成している	(教) 95% ※R7 91%	・日常的なOJTの推進 ・教職経験年数に応じた各キャリアステージで求められる教員像を意識し、自身がめざすべき姿(教員力)の習得に努める。 ・教職経験年数の少ない教員の育成について、学校全体でチームとして組織的に行う。
サービス、不祥事の防止について、職員会議で周知徹底を図る	(教) 100% ※R7 100%	・教職員の指導監督を適切に行い、事例を示しながら服務規律の確保を図る。また、不祥事の発生を予防し、未然防止を図るため、関係資料を活用し校内研修を実施する。
教職員の業務量管理・健康確保について	時間外勤務時間年平均30時間 (職員平均) 職員の年休の取得12日以上	教職員の健康管理の観点から、残業をしない日を設定し、定時退勤を行う習慣をつくる。同僚性を高め、互いに声をかけあって業務の平準化に努めると共に、長時間勤務になる教員には、面談をおこないメンタルヘルスと共に業務の振り分けなどをおこなう。

目標設定区分4 『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
地域の教育コミュニティづくりと家庭教育への支援		学校運営協議会で成果や課題に対する助言の共有内容 学校教育自己診断アンケート
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
PTAとの連携	・PTA 行事の実施 ・おか公タイムの充実	・PTA 役員会を通じて、年間を通した児童を乐しませる行事の計画・実施への教職員の積極的な参画をおこなう ・PTA や地域と協力した放課後の校庭開放の計画的な実施
学校運営協議会の活用	年3回以上の会議を実施	・学校運営協議会の有効的な活用を模索し、今後の学校運営に係る組織の充実を検討する。 ・岡部小部会での活動のさらなる充実をはかる。
宿題を含む家庭学習では、15分×学年の時間を取組んでいる	(児) 60% ※R7 53%	・自学の好事例を掲示し、児童の意欲を喚起する。 ・家庭学習の習慣化定着を支援するため、家庭学習の手引きを活用し、あらゆる機会に保護者あて協力を求めていく